

2024 年 4 月入学 博士後期課程 一般入学試験・国費留学生等入学試験
2024 年 9 月入学/2025 年 4 月入学 中国国家建設高水準大学公費派遣研究生受入制度
事前課題

課題文を読んで、2500 字から 3000 字程度で設問に答えなさい。その際、資料や文献を参照し、それらを明記すること。参考文献や引用文献等のリストも上記文字数に含みます。

設問

課題文の論旨を簡潔にまとめなさい。その上で、日本語教育学においてはどのような研究課題となり得るか、そこで得られる研究成果の可能性、および、限界について、根拠を示しながら具体的に述べなさい。

課題文

「今から来れる？」―言外の意味を意識する

「行間を読む」とか「空気を読む」という言葉に表されているように、日常生活の中では、言葉に直接表れていない相手の意図を汲み取る必要性がたびたび出てくる。いわゆる「言外の意味」というものだ。

言外の意味にもさまざまなものがある。たとえば合言葉は、「仲間内での事前の取り決め」に従って、言葉の本来の意味とは関係のない意図を伝えられるようにしたものだ。時代劇などでおなじみの合言葉「山」「川」は「お前は仲間か?」「そうだ」ということを伝えるが、ここで伝えられる内容と、「山」「川」そのものの意味との間には直接的な関係はない。

また、「仲間内での事前の取り決め」と言えば狭い感じがするが、これを「社会人コミュニティ」の中で「共通の理解」と考えると、私たちはより頻繁に合言葉的な表現を使っていると言える。たとえば、あまり真剣にやる気がないことをやんわり伝える「善処します」だとか、本気で思っているわけではない「今度うちに遊びに来てください」などといった社交辞令の一部も、ある意味「社会人だったら真意が分かることが期待される、合言葉的な言い回し」だと言えるかもしれない。

言外の意味を理解するのは難しいと言われるが、中には、私たちの日常に馴染みすぎているがゆえに、言外の意味だということがほとんど意識されないものもある。そういったものの一つに、言語学で「会話的含み (conversational implicature)」と呼ばれるものがある。これは、「なぜ話し手は、今この文脈で、あえてこのようなことを言ったのだろう」という推測から生じる言外の意味だ。次の問題を考えていただきたい。

【問題】以下の(1)～(5)のような状況で発せられた言葉を聞いて、あなたはどのように感じるだろうか。a～eから選んでみてほしい。複数選んでもよい。

- (1) 友人から、「今から来れる?」というメールが来た。
- (2) あなたが会社に遅刻した日、上司から「君が時間どおりに出社してくれたので、本当に助かったよ」と言われた。
- (3) 窓の近くに立っていたら、人から「その窓、開けられますか?」と言われた。
- (4) 好きな人に告白して、付き合ってくださいと言ったら、「実は私、好きな人がいるんです」と言われた。
- (5) 有名なピアニストが、「私は生まれてから一度もピアノに触ったことはありません」と言った。

- a. 断られているんだな。
- b. 冗談を言っているんだな。
- c. お願いを言っているんだな。
- d. 皮肉を言われているんだな。
- e. 命令を言っているんだな。

実は、これらの問題には絶対的な正解や不正解はない。よって、a～eの中からどれを選ぶかが人によって違っても構わない。ただし、全体的な傾向はあると思う。

(1)の「今から来れる？」については、c、eを選んだ人が多いのではないだろうか。実際、私たちは(1)のような発言を、「今から来て」というお願い(あるいは命令)だと解釈しがちだ。ここで注目すべきなのは、「今から来れる？」という文そのものは疑問文であり、お願いや命令の形をしていない、という点だ。つまり「お願い」や「命令」は、「今から来れる？」から直接出てくる意味ではない。にもかかわらず、私たちが「今から来れる？」をただの質問ではなく、お願いや命令だと解釈するのは、相手がなぜ自分に対して「あえて」このように尋ねているか考えた結果、「相手は私に来るように依頼(命令)している」と推測するからだ。こういったものが会話の含みである。

会話の含みは、先に紹介した「文が含意する内容」とは異なる。その証拠に、後から取り消すことができる。たとえば友人が「今から来れる？」あ、でも、別に来てくれっていう意味じゃないから。単に、来れるかどうか訊いているだけだから」と言うことは可能だ。もちろん、来てもらおうと思っているわけでもないのになぜ「来れる？」などと言っているのだろうか、という疑問は残る。しかしそれはあくまで疑問であって、含意される内容を後から取り消した時に生じる「矛盾している感じ」とは違うはずだ。

(2)で上司が言う「君が時間どおりに出勤してくれたので、本当に助かったよ」については、bかd、つまり「冗談」か「皮肉」を選んだ人が多いだろう。(5)のピアニストの発言「私は生まれてから一度もピアノに触ったことがありません」も似たような例で、bの「冗談」を選んだ人が多いと思う。これらのように、話し手が心にもないことをわざと言った場合、聞き手はたいてい「なぜこの人は、心にもないことをあえて言っているのだろう」と考え、「そうか、相手は冗談(あるいは皮肉)を言っているのだ」と結論づける。

(3)の「その窓、開けられますか？」も(1)に似た例で、cの「お願い」か、eの「命令」を選んだ人が多いと思う。これも表面上は疑問文であり、依頼や命令の形をしていない。また、「その窓、開けられますか？」あ、でも、単に開けられるかどうか聞いているだけで、開けてつていう意味ではないんです」というふうに、後から取り消すことができる。

(4)の「実は私、好きな人がいるんです」については、ほとんどの人がaの「お断り」を選んだはずだ。中には、「これ、言外の意味？言外というより、ストレートに断ってない？」と疑問に思った人もいると思う。確かに「付き合ってください」と言われて「好きな人がいるんです」と答えるのは典型的な断り文句だが、「好きな人がいる」という文そのものから直接「あなたとは

付き合えないので、お断りします」という内容が出てくるわけではない。その証拠に、「実は私、好きな人がいるんです。それは、あなたのことです。だから、あなたとお付き合います」のよう

に答えることだってできる。もっとも、このような答えを素直に喜ぶか、それとも「こんなし

やらくさい答え方をする人だと思わなかった」と幻滅するかは人によるだろうが。

以上のように、私たちは言外の意味を理解するとき、「言葉が文字通りに表す内容」だけでなく、「仲間（コミュニティ）内での取り決め」や、「言葉が発せられた文脈」などを手がかりに、高度な推測を行っている。合言葉的な表現にしろ、会話の含みにしろ、言外の意味が相手にきちんと伝わるためには、「これは文字通りの意味で受け取ってはいけないんだな」ということが相手に伝わらなくてはならない。これは人間どうしでもうまくいかないことがあるし、言葉を操る人工知能（AI）にとってもかなりの難問でもある。

川添愛（二〇二二）『ふだん使いの言語学——「ことばの基礎力」を鍛えるヒント』新潮社
pp.46-50